

昭和四年六月

秘

控

昭和四年度
研究部長
實驗部長
打合會議
現狀報告

海軍燃料廠研究部

昭和四年度研究實驗部長打合會議提出現狀報告目次

(一) 人員

- (1) 高等官
- (2) 判任官以下
- (3) 囑託員調

(二) 豫算

- (1) 昭和三年度初頭事業概觀同決算額及本年度事業概觀對照表
- (2) 昭和三年度職工費及附屬費調

(三) 設備

- (1) 昭和三年度初頭以後、主要營造物增減狀況
- (2) 昭和三年度初頭以後、主要機械器具增減調

(四) 研究實驗作業

- (1) 海軍燃料廠研究部事務分掌表
- (2) 昭和四年度實施予定、主要研究實驗事項調書

海軍燃料廠研究部

員

(五) 成果

- (一) 昭和三年度初頭ヨリ同四年五月廿日ニ至ル研究實驗ノ成果等一般的事項ハ會議ノ際口述ス
- (二) 昭和三年度初頭ヨリ同四年五月廿日ノ期間實施セル主要研究實驗事項
- (三) 昭和二年、三年、四年、年度研究實驗項目數比較表
- (四) 自昭和三年度初頭提出舉行研究實驗報告書類
- (五) 發明考案受賞者及受特許者調

海軍燃料廠研究部

人員

(五) 成果

- (一) 昭和三年度初頭ヨリ同四年五月廿日ニ至ル研究實驗ノ成果等一般的重項ハ會議ノ際口述ス
- (二) 昭和三年度初頭至昭和四年五月二十日 期間實施セル主要研究實驗事項
- (三) 昭和二年、三年、四年、年度研究實驗項目比較表
- (四) 自昭和三年度初頭提出發行研究實驗報告書類
- (五) 發明考案受賞者及受特許者調

(別表第二)

(一) 人員

(昭和四年五月二十日調)

(四) 判任官以下

海軍燃料廠研究部

在右 教勤	減 以	前 會 計 時 時 時	計	他 借 員	現 員	定 員
						官士准
						費軍 技
二	減二			二	四	費軍 手
						費軍 技臨
						費軍 手增
一	增二			四		(手技)記備
						費軍 手技務兼
			六			費軍 務勤時常
						手 工務特*
						費軍 書
						費軍 記
						工持録記*
						(記書)記備
						官士下
三			六	六	四	計小官任判
						兵
						生筆 雇員
六	增六		二五		二五	生技
						手工務特*
一	增二				三	手 工
六	增九			貸一	八四	工 男
						工 女
三			九七		九	工習見
						夫 職
						筆大人時臨
七二	增一七		七一九	一	一三	計小下以兵
七五	增一七		一三五	貸一	一三四	計合總

備考 技手「減二」八目下任用員申中ナリ

豫

算

海軍燃料廠研究部

(別表第四)

(二) 豫算

(1) 昭和三年度初頭事業概額同決算額及本年度事業概額對照表

海軍燃料廠 研究部

科目	事業	數量	三年度事業概額		記事
			金額	決算額	
廳費	圖書購入		一四六六〇〇〇	一四六五七〇〇	
旅費	雇員以上出張旅費		一八八九三八〇	一八八九三八〇	
建造物補修	職工食堂及實驗場新築 其他修繕		一〇〇〇〇〇〇	九五八七五〇	
器具機械補修	乾溜實驗及印刷用器具 機械類補修費		九〇〇〇〇〇	八六九四九八六	
材料費	乾溜實驗用材料炭		一五〇〇〇〇〇	八三九四〇〇〇	
職工人夫給	乾溜實驗用職工人夫賃		一九五〇〇〇〇	一九五〇〇〇〇	
動力及 需品費	電力及燃料炭消耗品 等購入		四六〇〇〇〇	四八九九五六六	
試驗及 研究費	試驗研究用器具消耗品 雇員以下人件費		一三四七二九一六	一三三四七五三八	
			一三五、一六〇、〇〇〇	一三五、一六〇、〇〇〇	

委託研究費	石炭液化石研究實驗器具 消耗品代價等	50,000.00	55,750.69	150,000.00	0.00
	合計	336,738.29	242,654.65	350,564.50	
科目	事項	決算金額	記	事	
試驗及研究費	タール酸、研究用滑油、基礎研究、 ピッチ、人体及ホス障害、研究	374.53	京都帝國大學、小松理學博士及同 松本醫學博士へ委託		
"	加壓釜修理	3,645.00			
委託研究費	加壓釜製作	2,775.56	吳海軍工廠へ委託		
"	石炭液化石裝置設計及裝圖	400.00			
"	アルミニウム被覆管製作	210.60	廣海軍工廠へ委託		
合計		7,661.40			
該當事項ナシ					

委託

別表第五

(二) 豫算

(四) 昭和三年度職工費及附屬費調

海軍燃料廠 研究部

職工費		附屬費		該當事項ナシ	
總額	59,549.75	59,549.75	0	0	
研究實驗ニ直接 從事スル者ニ對スル分					
製造注文材料分					
附屬費支辨分					
記					
事					

設

備

海軍燃料廠研究部

(別表第六)

(三) 設備

(昭和四年五月二十日調)

(1) 自昭和三年度初頭至四年五月三十一日期間主要營造物増減調

海軍燃料廠研究部

費目	増減	名稱	用途	種類	坪數		豫算	着手完成		記事
					地坪	延坪		着手	完成	
建造物補修	増	第三實驗場新築	石油精製實驗	木造	四〇坪		二九七八〇〇	三一九	三〇六	
	減	第三實驗場煉炭部(移管)	電気修理工場(充當)	煉瓦建	三六五坪		四九八七〇			三年六月移管
	増	防禦壁新設	高壓實驗	鉄筋コンクリート	七六六坪		二八三〇〇	三二五	三一六	
	"	職工浴場及食堂場新築	倉庫以下使用	木造	五七五坪		四五一九五〇	三一七	三一〇	
	減	職工浴場及食堂場水素發生所(變更)	水素充填所	木造	二四五坪		四三六五〇〇			三年十月用途變更
	増	右増築	"	"	三坪		三六〇〇	三一九	三一二	
	"	水素發生所新築	水素發生基板設置	"	一坪二		八六〇〇	四一二	四一三	
受託研究費	"	防禦壁上家(後設物)	防禦壁雨覆	亜鉛引鉄板張	三一坪		七五七〇〇	四一一	三一二	

石炭液化諸装置 上家(仮設物)
諸機械上家
木造 平家建
六坪
二四八六三 三二〇 三一一

(別表第七)

(三) 設備

(四) 自昭和四年五月初頭期間主要機械器具増減調

(昭和四年五月二十日調)

海軍燃料廠 硯究部

賞目	増減	機械名	主要寸法能力等	量数	製造所名	据付撤去 購入年月	使用途	購入價格 (据付費用)	所見 記事
産託 研究費	増	瓦斯貯槽	水槽直径 天吹六寸五分 深二 吹七寸五分 瓦斯槽直径 五吹四 寸五分 深一吹一寸五分 容量 八〇 リットル	四個	株式会社 華袋製作所	昭和 四年一 月購入	實驗 發料	九七、七 九七、七	
産託 研究費	増	加壓釜	ベルギウス式 試驗用 内容二立	一個	三菱商事 株式会社	三 一八〇		一〇四、〇 〇〇〇	
産託 研究費	増		振盪式内容一五立 耐圧三〇〇気圧	一個	西製作所			一六〇、〇 〇〇〇	
試験 研究費	増		内容、五立	一個		三 一九〇		七九、九 〇〇〇	
産託 研究費	増		ベルギウス式 内容二五立 耐圧三〇〇気圧	五個	吳工廠	三 一一二		二七、七 五、六	
産託 研究費	増		振盪式内容〇、五立 耐圧三〇〇気圧	三個	西製作所	四 一一〇		二四、二 五、〇	
産託 研究費	増		内容〇、二立 常用一〇〇気圧	一個		三 一一二		六〇、〇 〇〇〇	
産託 研究費	増	高熱檢温器	据付撤去 定規 温度リリ一〇〇度迄測	三個	北辰電氣 製作所	三 一九〇		八七、〇 〇〇〇	

研究實驗作業

海軍燃料廠研究部

研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費
減	減	減	減	減	減	減	減	減	減	減
奧油乾油機	熱量計	瓦斯計量器	高壓實驗裝置	自記高溫計	瓦斯分析裝置	洗滌實驗裝置	潤滑油試驗器	自記高溫計	自記高溫計	高熱檢溫器
水平式冷却器二聯式、ト ル、一回自油處理機三、二付	ベルロモラ、ト氏	濕式、八、灯用最大通気 量毎時四八、五方呎	内圧三〇〇気圧、耐入、反應室 ハ、接底五〇度、長時間耐待	カ、ルソ、ン、バ、ル、式、推、瓦、度、一 六〇度測定速度毎分七五耗	低溫低壓ニ於ケル混合瓦 斯分析裝置	攪拌器容量二斗、モノ、二個 一馬力電動機附	油膜、厚サ測定用	推瓦、一〇〇度、一、五〇〇度、及、三〇〇 度、度、用、サ、モ、カ、ル、ソ、ル、任、意、 接、底、電、動、機、附	推瓦、一〇〇度、一、五〇〇度、及、三〇〇 度、度、用、サ、モ、カ、ル、ソ、ル、任、意、 接、底、電、動、機、附	推瓦、一〇〇度、一、五〇〇度、及、三〇〇 度、度、用、サ、モ、カ、ル、ソ、ル、任、意、 接、底、電、動、機、附
一組	一個	一個	一個	二個	一個	一個	一個	一個	二個	二個
			島津製作所	北原電氣 製作所	山下耕作	株式會社大阪 機械製作所	吳工廠	リース、ア、ン、ド イ、タ、ラ、ソ、社		北原電氣 製作所
三一八	三一八	三、一、六 還納	四一三	三一、二	四一三	三一、二	三一八	三一、九		三一、九 購入
實驗用	研究實驗用	實驗用		實驗用	研究用					實驗用
二五八三 〇〇〇	六五〇 〇〇〇	六〇〇 〇〇〇	二、五〇〇 〇〇〇	一、六一八 五九〇	七九〇 〇〇〇	六三六 〇〇〇	六三六 九二〇	三、七六八 〇〇〇	九二〇 〇〇〇	八九〇 〇〇〇

研究實驗作業

海軍燃料廠研究部

研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費
增	增	增	增	增	增	增	增	增	增
高熱極溫器	自記高溫計	潤滑油試驗器	洗滌實驗裝置	瓦斯分析裝置	自記高溫計	高熱實驗裝置	瓦斯計量器	熱量計	魚油乾燥機械
摄氏零度ヨリ一六〇〇度迄測定 摄氏零度ヨリ一三〇〇度迄測定	摄氏一〇〇度一五〇〇度及三〇〇度一五〇〇度ヨリ加圧電熱機附	油膜ノ厚サ測定用	攪拌器容量二斗、モーター一個 馬力電動機附	低温低壓ニ於テ混合瓦斯分析裝置	分ルノバル式摄氏〇度一七〇〇度迄測定速度毎分七五回転 内ル三〇〇瓦力ノ高々能管 ノ機五〇〇度ニ長時間ニ待	摄氏八〇度ヨリ最大通氣量毎時四〇立方呎	ヘルシロマトール氏	水車式冷却器二所式レト ル一箇魚油処理量三三升	
二個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個
北辰電氣製作所	リイダア社 イヌラカ社	吳工廠	株式合資大改 機械製作所	山下耕作	北辰電氣製作所	島津製作所			
三一九	三一八	三一八	三一八	四一三	三一八	四一三	三一八	三一八	三一八
實驗用	實驗用	實驗用	實驗用	實驗用	實驗用	實驗用	實驗用	實驗用	實驗用
八九〇〇〇	九二〇〇〇	五七六八〇〇	六三六九二	七九〇〇〇	一六八八九	二九〇〇〇	六〇〇〇〇	六五〇〇〇	六二八〇〇

(別表第八)

(四) 研究實驗作業

(1) 海軍燃料廠研究部事務分掌表 (昭和四年五月二十日調)

部長 機関大佐 子爵 河瀬 貞

研	調査科	係務工			担	任	區	分
		印刷所	倉庫	工務				
研 第一班	燃料之関又ハ一般調査 報文發行及整理 圖書整理 標本整理	印刷全般	物品ノ購買要求及出納並 保管整理	庶務工務全般	主任	區	分	
機関大尉 並河 孝	機関大佐 子爵 河瀬 貞	機関少佐 別府 良三	技手 吉弘 太作	主任又ハ令担官氏名	判任官配置官名	技生 北村 占	置職氏名	
囑託 米谷 省一 囑託 住本 誠治	家守 長一 河村 太一 近藤 一士	堀間 敦雄	伊賀崎 貞一	技生 播磨 彌一	職手 職手一 職手二 職手三 職手四	分析手一	分析手一 分析手二 分析手三 分析手四	
分析手一	分析手二	製圖工二	刷版工五 雜工一	分析手二	並職工 七七	分析手一	分析手二 分析手三 分析手四	

實		科				究			
第一班	特別班	第四班	第三班	第二班	特別班	第四班	第三班	第二班	
燃料及潤滑油ノ實驗	石炭液化ニ関スル研究	石炭油類及其他購買品規格試験並一般委託試験	合成燃料ニ関スル研究	液体燃料及潤滑油ニ関スル研究					
技師 秋田 穰 機師 佐宮下博雄	技師 小川 亨 機師 大尉 橋田俊雄	機師 大尉 並河 孝	技師 藤尾 誓 技師 江口 孝 機師 少佐 別府良三	技師 山口昌三 技師 秋田 穰 機師 大尉 渡辺伊三郎					
嘱託 中西 卓	嘱託 住本誠治 高橋功夫	技手 吉弘 太作		技生 景平 一雄					
山縣 仁助	技生 室本甚吉 小西 治市	技生 古良 鷹二	技生 白井 章 藤本 春季	技生 明石 義作 磯谷 延治 中井 利三郎					
實驗手二 分析工一	分析手一 可見習二 實驗工一	分析手一 分析工一〇		分析手二 分析工五					
	實驗工八	分析工一〇	分析工五 可見習三	分析工五 可見習三					

科		驗	
特別班	第二班		
石炭液化ニ関スル實驗	乾溜ニ関スル實驗及燃料用瓦斯製造		
技師 小川 亨 機師 大尉 橋田俊雄	機師 大尉 並河 孝	機師 大尉 赤羽銀次郎	
	技手 島村 浩 嘱託 米谷省一		
菅浦 正義	田島 悅郎 富玉 雅壽	技生 笠谷 恒一 杉原 秀夫 藤本 久二	
	分析手一 製圖手二 製園工一	組長二 組長二 任長四	
	分析工一 實驗工五	運転工一〇	

海軍燃料廠ニ於ケル燃料ニ関スル事項研究嘱託 大島 義清
 燃料化学的研究ニ関スル事項嘱託 小松 茂
 製油並其研究ニ関スル事項嘱託 安藤 一雄
 燃料研究ニ関スル事項嘱託 栗原 鑑司

(別表第八)

(四) 研究實驗作業

(ロ) 昭和四年度實施豫定、主要研究實驗事項調書

海軍燃料廠研究部

主要區分	研究事項	訓令通牒年 月番字 目	目的實施方案要旨	記事 (担当者 並其他)
石炭及煉炭ニ関スル研究	石炭熱分解ノ研究		石炭熱分解ノ機作ヲ明カニ シ石炭液化ニ資セントス	任本、根本 四一—二
"	ピツチノ成分ニ関スル研究		ピツチ成分ノ視器及皮膚ニ及ボ ス影響ヲ明カセントス	任本、根本 四一—八
"	煉炭ノ成分ニ関スル研究		煉炭性状ト各配合炭トノ關係ヲ明 カニセントス	宮下、吉弘、河野 四一—二
"	洗炭ニ関スル研究		洗炭法ノ工業的研究ヲ行ハントス	宮下、瀨口
"	煉炭貯藏ニ関スル研究		煉炭ノ適當ナル貯藏法ノ實驗調査	調査委員會

液体燃料及潤滑油ニ関スル研究	輕質油ノ燃燒ニ関スル研究	航空機燃料ノ氣筒内ニ於ケル燃燒ノ現象ヲ觀ハントス	秋田、中田
重質油ノ燃燒ニ関スル研究	「テイセル」機関氣筒内ニ於ケル燃燒狀況ノ闡明ニ資セントス		秋田、磯谷
油脂利用ニ関スル研究	燃料及潤滑油トシテノ油脂ノ利用ヲ研究セントス		山口
低温「タル」ノ利用ニ関スル研究	低温「タル」ヨリ簡單ニ軍用燃料ヲ得ントス		委員會 五―一〇
頁岩油ニ関スル研究	化學組成ヲ明カニセントス		山口 四―九
潤滑油ノ製造ニ関スル研究	撫順産頁岩油ノ適當ナル処理法ヲ行ハントス		山口、北村 五―四
潤滑油性狀ニ関スル研究	原油ヨリ良質ノ潤滑油ヲ得ントス		景平、坂本
潤滑油ノ基礎的研究	使用限度ヲ決定スル資料ヲ得ントス		景平、明石
合成燃料ニ関スル研究	燃料油ノ合成		
石炭瓦斯ノ分解縮合ニ関スル研究	石炭瓦斯中ノ炭化水素ヨリ燃料油ヲ得ントス		藤尾、白井
石炭製造渣回收ニ関スル研究	純度高キ水素ヲ廉價ニ製造及回收セントス		藤尾、藤本
「アセチレン」瓦斯重合實驗	「アセチレン」瓦斯、重合ヲ半工業的裝置ニヨリテ實驗セントス		別府、福谷
石炭、水素添加ニ関スル研究	石炭、水素添加ヲ行ヒテ液体燃料ヲ得ントス		小川、横田 任本、高橋 根本 六―七
石炭液化ニ関スル研究	主トシテ炭化水素及水素ノ測		山口、米谷 五―四
雜研究	瓦斯分析法ノ研究		
化學構造ト潤滑性能トノ關係ヲ明カニセントス	「酸化」炭素及水素ヲ縮合シ液体燃料ヲ得ントス		景平、江口

成
果

海軍燃料廠研究部

備考

一 當部ニ於ケル研究實驗ハ毎年度初頭大臣訓令ニ基キ
 行フモノナルヲ以テ特別ノモノノ外訓令通牒年月番
 號ハ之ヲ掲記セズ

ニ 右ニ依リ其ノ細目ヲ當部ニテ定メ行フモノヲ自發
 研究實驗項目トシテ記載セリ以下第十表迄同
 断

備考

一 當部ニ於ケル研究實驗ハ毎年度初頭大臣訓令ニ基キ
行フモノナルヲ以テ特別ノモノノ外訓令通牒年月番
號ハ之ヲ掲記セズ

二 右ニ依リ其ノ細目ヲ當部ニテ定メ行フモノヲ自筆
研究實驗項目トシテ記載セリ以下第十表迄同
断

成
果

海軍燃料廠研究部

(別表第九)

(五) 成果

(四) 自昭和三年五月初頭至四年五月末日頭期間實施之主要研究實驗事項

海軍燃料廠研究部

目次

一	二	三	四	五	六
實驗號	研究事項名	開閉令通 年月日 卷號	報告類番號	頁	担当者記事
一	低溫乾溜實驗	"	實驗報告 第三卷	一	海軍燃料廠 囑託 山口昌三 海軍技手 島村浩
	(1) "	"	第三卷		
	(2) "	"	第四卷		
	(3) "	"	第五卷		
二	石炭低溫乾溜研究		研究報告 第二卷	三	囑託 山口昌三 (目下印刷中)
三	洗炭滓利用之研究		實驗報告 第四卷	三	

一〇	台湾原油ニ関スル研究				九	囑託 山本利夫 (成績取纏中)
一一	石炭試験法				九	海軍技師 小川亨 囑託 住本誠治 生 根本福治
	(一) 水分定量法					
	(二) 揮発分定量法			第三卷 第八號	一〇	"
	(三) 灰分定量法			第三卷 第九號	一〇	"
	(四) 試料採取法並試料調製法			研究雜報 第五卷	一〇	海軍技師 小川亨 囑託 住本誠治
一二	タービン油ノ安定度ニ就テ			第四卷 第一號	一一	海軍技師 下田健市

九	石油原油及重油ノコエール シヨンニ就テ				八	海軍技師 江口孝
八	撫順産油頁岩「ター」中、埋差 性化合物ニ就テ				七	海軍技師 江口孝
七	「ア」セル機械用燃料ノ燃燒 ニ関スル研究				六	海軍技師 秋田穰 生 山縣仁助 " 杉原秀夫 (成績取纏中)
六	酒精変性法ノ研究				六	海軍技師 江口孝 " 松尾直士
五	潤滑油ニヨル酸錆ニ就テ				六	海軍技師 下田健市
四	輕質油ノ性状ニ関スル研究 本邦産原油中ノ揮発油分 ノ成分ニ関スル研究				五	海軍技師 秋田穰 (目下印刷中)
	(1) 洗炭滓ヨリ可燃性物質ノ 回收ニ就テ				四	海軍技師 吉弘大作 分析師 河野貞三
	(2) 洗炭滓ノ燃燒實驗				四	海軍機關少佐 宮下博雄 生 青木頼行
	(3) 洗炭滓篩別装置ノ實驗				四	海軍機關少佐 宮下博雄 海軍技師 藤田定平

本文

一頁番號

研究 事項 概要

一

(1) 低温乾溜實驗 (第四報)

本邦産石炭ニ對スル「チツセン」式ノ性能ヲ確ムル第一歩トシテ
粘結性ヲ殆ド有セザル新原塊炭(瀝青炭)ヲ數種ノ異ナ
レル條件ノ下ニ乾溜ヲ行ヒ其ノ生産物ノ得量及性質ヲ
比較シ夫ヨリ乾溜條件ノ生成物ニ及ボス影響ヲ論ジ
供セテ本式ノ機能ニ就キ其ノ特徴ノ二三ヲ述ベタリ

(2) 低温乾溜實驗 (第五報)

石炭ヲ低温乾溜スル際其ノ生成物ノ收量及性質ニ
影響者ヲ及ボスベキ條件ハ種々アレドモ豎式爐ニ於テ乾
溜温度ノ外ニ瓦斯取出口ノ位置ガ影響ヲ來スコトヲ
確メタリ

(3) 低溫乾溜實驗 (第六報)

朝鮮褐炭(會寧、生氣嶺及院坪炭)ノ一利用法トシテ、 χ 式及 γ 式爐竝米國鑛山局爐ニテ低溫乾溜實驗ヲ施行シタルニ工業的實驗ノ結果ハ實驗室結果ニ比シ成績甚ダ不良ナリ。然レドモ χ 式ニ於テハ石炭ヲ豫熱スル事ニヨリ豫メ水分ヲ除ク時ハ或ハ相當良好結果ヲ得ベキ可能性アルモ γ 式ニ於テハ之等褐炭ハ粉狀ヲ呈スルガ爲其ノ操作上ヨリ見テ不適當ナリ。次ニ褐炭ノ種類ニ就テ見ルニ會寧炭及生氣嶺炭ハ工業的ニ作業シ得ル可能性充分アルモ院坪炭ニ至リテハ今迄ノ實驗結果ヨリ見テハ可能性ナキモノト認メラル。

二

石炭低溫乾溜研究 (目下印刷中)

米國鑛山局爐ヲ用ヒテ新原炭ヲ種々ノ溫度ニテ乾溜シ其ノ生成物ヲ精細ニ調査セル結果、 χ 式 γ 式ヲ得ル爲ニハ四五〇—五〇〇度Cが最適當ナル乾溜溫度ニシテ五〇〇度Cが低溫乾溜範圍ニ於ケル一ツノ限界莫ナリト論ジ元素分布及揮発分分布ノ比較ヨリ石炭ノ熱ニ依ル反應ヲ考察セシニ單ニ石炭中ノ揮発分ノ熱變化ノミニ依ルニ非ズシテ生成タル χ 、 γ ノ熱分解及水成瓦斯類似ノ反應、同時ニ起レル事ヲ推論セリ。

三

洗炭滓ノ利用ニ就テ (目下印刷中)

(1) 洗炭滓ヨリ可燃性物質ノ回收ニ就テ
當廠洗炭滓中ニハ尙可燃性物質混在スルヲ以テ

之ガ分離方法トシテ篩別ヲ行ヒタルニ其ノ細粉部分ハ灰分比較的少ナキヲ以テ或施設ヲ爲サバ罐用燃料炭トシテ使用シ得ラルベキ事ヲ確メタリ

(2) 洗炭滓ノ燃燒實驗 (目下印刷中)

第一報(洗炭滓ヨリ可燃性物質ニ就テ)ニヨリテ洗炭滓ハ有効ニ利用シ得ルモノト推定シ之ヲ罐ノ燃料トシテ試焚セシニ其ノ成績ハ良好ニシテ從來ノ如ク徒ラニ相當ノ運搬費ヲ支辨シテ棄却スルコトナク勞力及經費ノ節約ニ資スル所大ナルモノアリ

(3) 洗炭滓篩別裝置ノ實驗

洗炭工場生産洗炭滓ハ硬炭塊石ノ混入多クシテ其ノ儘各工場基罐ニ燃料トシテ使用スル事ハ不利ナルニツキ洗炭工場内ニ篩別裝置ヲ新設シ其ノ篩別

ニ依リテ區分スルト共ニ流出洗滌水ヲ除去スル方法ヲ採リシニ結果良好ニシテ洗炭滓ノ利用問題ハ之ニ依リテ實用化スルヲ得タリ

四

輕質油ノ性狀ニ関スル研究

本邦産原油中ノ揮發油分ノ成分ニ関スル研究(目下印刷中)

本邦産原油中ニ〇。度C迄ニ溜出スル揮發油分中ニ含有セララル各系炭化水素ヲ定量セル結果概シテ芳香族炭化水素及「ナフテン」系炭化水素ニ富ミ「ワッキンダ」ノ見地ヨリ内火式機械用燃料トシテ適當セルモノ多キ事ヲ認メタリ

五

潤滑油ニヨル酸錆ニ就テ

潤滑油が水分ヲ含有セザル時ハ鐵面ニ接觸スルモ
毫モ酸錆セズト雖水分ノ混入スル時ハ酸錆ス而
シテ水分ノ存在下ニ於テモ潤滑油ノ性質ニヨリ酸錆
ニ遲速及程度ニ差異アルコトヲ察見シ其ノ原因ハ潤
滑油ノ油膜構成力ノ大小ニヨルモノナルベキヲ推定セリ

六

酒精変性法ノ研究

撫順産頁岩「タール」ノ沸點一六〇—二〇〇度部分
ヲ酒精ニ對シ〇五%容内外添加スルコトニ依リ簡
單ニ酒精変性ノ目的ヲ達シ得タリ

七

「デイセル」機械用燃料ノ燃燒ニ関スル研究 (目下印刷)

八

撫順産油頁岩「タール」中ノ塩基性化合物ニ就テ (第二報)

各種燃料ニテ「デイセル」機械ヲ運轉シ其ノ成績ヲ
「タラン」重油ヲ燃料トセル標準運轉成績ト比較考究
シ燃料トシテノ適否ヲ判定セントス

撫順産油頁岩「タール」ノ輕質部ニ含マルル塩基性化合
物ニ就テハ第一報ニ於テ述べタル如ク其ノ低沸點部
分ハ大体「ピリジン」系物質ノ混合物ナリト豫想スルヲ得
ベシ

然ルニ今日「タール」塩基殊ニ「ピリジン」塩基ニ就テ記
述セラルル所少シトセザレドモ其ノ結果ハ彼此撞着セル
モノ少カラズノミナラズ其ノ簡單ナル誘導體ノ如キニアリ

テモ未ダ發見セラレザルモノアリテ之等成分ノ研究ニ
 一層ノ進展ト統一ヲ要スルモノアリ 著者ハコノ意味
 ニ於テ引續キ其ノ成分ノ精密ナル研究ヲ續行シ第
 一報所載ノ外十四種ノ「ピリヂン」塩基ヲ單離シ塩基
 ノ沸點一〇〇—二〇〇度範圍ノモノハ簡單ナル「ピリヂン」
 系物質ノ混合物ナルコトヲ闡明セリ 此ノ外著者ハ
 從來發見セラレザリシ一種ノ塩基性化合物ヲ發見シ「ピ
 リンデン」(Pyridane)ナルベシト結論セリ 即チ「ピ
 リン」系等ノミナラズ本物質ノ誘導體即チ「ピリイン
 デン」系物質ヲモ含有スベキ事ヲ推察シ得タリ

石油原油及重油ノ「エマルション」ニ就テ

石油原油及重油ガ水ヲ微粒狀ニ含ム所謂「エマル
 ション」ノ原因ニ就キテ研究シ油中ニ存在スル「アスファル
 テン」ノ作用ニ負フ所大ナルヲ指摘セリ

一〇 台湾原油ニ關スル研究 (目下報文取纏中)

試油ヲ分溜シテ「ベンゼン」「トルエン」「キシレン」等ノ
 各溜分ニ分チ各溜分ニ於ケル其ノ芳香族炭化水素
 ヲ硫酸法ニヨリ定量シ次テ之ニ化學試薬ヲ作用セシ
 メテ芳香族炭化水素ノ誘導體トシテ分離ス

一一 石炭試験法

111 水分定量法

石炭ノ水分定量法ニ關シ從來行ハレタル方法及研究

ヲ吟味シ疑問トスベキ點ヲ指摘シ其ノ中加熱中ノ
變化ト使用爐ノ關係ニツキ實驗セリ

(2) 揮發分定量法

石炭ノ揮發分定量法ニ関シ從來行ハレタル方法
及研究ノ大略ヲ擧ゲ尙疑問トスベキ處ヲ指摘シ
其ノ中使用坩堝ノ問題及膨脹性石炭ノ場合ニ豫
熱スルコトノ可否ニツキテ實驗セリ

(3) 灰分定量法

石炭類試驗法ヲ制定スルニ當リ工業分析トシテノ
灰分ノ測定法ヲ定ムル爲ニ文献ニヨリ其ノ方法ヲ調
査シ灰化溫度及灰化後ノ加熱ノ影響ニツキ實驗
セリ

(4) 試料採取法並試料調製法

大量ノ石炭ノ性質ヲ定ムル爲ニ其ノ分析試料トシ
テ適當ノモノナラザルベカラズニ文献ヲ主トシテ如何ニ
スレバ之が實驗室ニ送附スベキ試料ヲ取り得ルカ實
驗室ニ送附シタル試料ヲ更ニ分析スル爲如何ナル方法
ニテ粉碎混合減容スル事か合理的ナリヤヲ論セリ

一ニ タービン油ノ安定度ニ就テ

タービン油ハ安定度大ナルコトヲ主要條件トスル
コトニ就キ概説セリ

不
同

(別表第十一)

(五) 成果

(二) 自昭和三年度初頭至同四年五月十日頃 提出發行研究實驗報告書類調

海軍燃料廠研究部

研究事項若ハ報告書類名	種別	発行年月	廠報告番號	部報告番號	担当者	番號
酒精麦性法ノ研究	普通	三、一〇	研究報告第一號		海軍技手 江口孝 松尾貞士	六
撫順産油質若クアル中ノ塩基性化合物ニ就テ(第一報)	"	三、一	第三卷第二號		海軍技手 江口孝	八
石油原油及重油ノエマルジョンニ就テ	"	三、一	第三卷第三號		"	九
低温乾燥實驗報告(第四報)	"	三、四	實驗報告第三卷第三號		海軍機關主任 玉城直吉 囑託 山口昌三 海軍技手 島村浩	一
小型立式低温乾燥裝置	"	三、五	第三卷第四號		"	一

石炭試驗法ニ就テ(其二) 試料採取法、試料調製法	エデリア又氏法ニヨル石油精製 法ニ就テ	Heller-Bamag 式蒸氣及水成 瓦斯回收「ヨクス」消火法ニ就テ (Dr.-Ing. Oswald Heller)	低温タルノ歴史及其成分 (E. Parrish)	本邦産原油中ノ揮発油成分 ニ関スル研究	石炭低温乾溜研究	機関車炭爐利用實驗報告
"	"	"	"	"	"	"
三、一、二	三、九	"	三、四	四、三	四、一	四、四
第五卷 第五號	第三卷 第四號	第三卷 第二號	研究雜報 第三卷 第一號	第四卷 第一號	研究報告 第四卷 第二號	第四卷 第二號
海軍技師 小川亨 囑託 佐本誠治	海軍技師 下田健市	技師 根本福治	囑託 末谷省一	海軍技師 秋田穰	囑託 山口昌三 (目下印刷中)	海軍機關少佐 宮下博雄 (目下印刷中)
一一				四	二	

朝鮮福炭實驗報告 (第六報)	潤滑油ニヨル揮発油ニ就テ	石炭試驗法ニ就テ(其三) 水分定量法	揮発分定量法	灰分定量法	洗炭滓ノ利用ニ就テ 洗炭滓ヨリ可燃性物質ノ回收ニ就テ	洗炭滓ノ燃燒實驗	洗炭滓篩別裝置ノ實驗
普通	"	"	"	"	"	"	"
三、一、一	三、一、二	三、一、二	三、一、二	三、一、二	四、三	四、三	四、三
實驗報告 第三卷 第五號	第三卷 第六號	第三卷 第七號	第三卷 第八號	第三卷 第九號	第四卷 第一號	"	"
"	海軍技師 下田健市	海軍技師 小川亨 囑託 佐本誠治 根本福治	"	"	海軍技師 吉弘太作 河野貞三 (目下印刷中)	海軍機關少佐 宮下博雄 技師 青木賴行 (目下印刷中)	海軍機關少佐 宮下博雄 海軍技師 藤田定平 (目下印刷中)
一	五	一一	"	"	三	"	"

クレーン油ノ安定度ニ就テ	普通	四、四	第一卷 第一號	海軍技師 下田健市
石炭ノ研究	"	三、一〇	講演 第六講	編記 理學博士 小松 茂
加熱分解	"	四、一	第七講	"
高温高压ニ於テ使用スル鋼材ニ就テ	"	四、五	號外	海軍造兵大佐 吉川晴十

(別表第十二)

(五) 成果

(昭和四年五月二十日調)

(六) 發明考案受賞者及受特許者調

海軍燃料廠研究部

發明考案受賞者

該當事項ナシ

受特許者調 (高等官)

名 稱	特許番號	年月日	特許権者	發明者	特許ノ要領
石油ピッチ精製法	七九八九八	四、一、八	海軍大臣	別府良三	本發明ハ石油「ピッチ」ヲ揮發油又ハ類似ノ溶劑ニテ浸出スルトキ「タール」酸ヲ加フルコトヲ特徵トシ是ニヨリ抽出液ノ分離ヲ容易ナラシメ且其ノ收得率ヲ増加セシメ溶劑及「タール」

石炭液化方法					
	八〇八四二				
	四一三〇七				
	海軍大臣				
	小川亨				
					ナク完全ニ船体ヲ保護スル 塗料ヲ得ントスルニアリ
					本發明ハ高温高压下ニ石炭 ヲ液化シテ得ラルル製品ヲ反 應ノ直後ニ於テ其ノ高温高 圧ヲ利用シテ成分ニ從ヒ數種ノ 瓦斯体例ハ水素一酸化炭素ノ ンヲ各主成分トスル瓦斯及數種 ノ液体例ハ揮發油分重油分 ピッチ等ニ任意ニ分離スルヲ 特徴トスル石炭液化方法ニ係リ 其ノ目的トスル處ハ從來高温 高压下ニ石炭ヲ液化シテ有要ナ

船底塗料製造法					
	八〇九二八				
	四一三一五				
	海軍大臣				
	別府良三				
					酸類ノ存在ノ下ニ於テ抽出物 ヲ精製シ後溶剤及アルカリ酸又 回收スル石油ピッチ精製法ニ シテ其ノ目的トスル所ハ粘度大 ニシテ硫酸含有量少ク安定 ナル物質ヲ得ントスルニアリ
					本發明ハ「ポリゲイン」及其誘 導体ト金屬塩類トノ複塩ニ 瀝青物質ヲ加ヘシモノヲ主成 分トスル船底塗料ヲ製造スル 方法ニ係リ其ノ目的トスル所ハ船 底ニ生物ノ附着スルヲ防止シ且堅 牢ナル皮膜ヲ作り耐腐スルニ係リ

